

「おいしい」防災訓練～佐用ぼうさい朝市の実施事例～

パシフィックコンサルタンツ(株)	正会員	桑原 正人	パシフィックコンサルタンツ(株)	非会員	千田 雅明
パシフィックコンサルタンツ(株)	正会員	○松井 達司	パシフィックコンサルタンツ(株)	正会員	森下 祐
パシフィックコンサルタンツ(株)	正会員	高西 春二	佐用商店会	非会員	千種 和英
早稲田エコステーション研究所	非会員	藤村 望洋	佐用町	非会員	真岡 伯好

1. はじめに

近年、地球温暖化に伴う気候変化は、人類の生存基盤そのものに影響を与える重要な課題であり、その影響は広範囲な分野に及ぶ。大雨の頻度増加、台風の激化等により、水害、土砂災害等が頻発・激甚化するとともに、降雨の変動幅が拡大することに伴う渇水の頻発や深刻化の懸念が指摘されている。また、人口減少や高齢化によって、地縁型のコミュニティが弱体化することが予想され、我が国の防災力低下が懸念される。

平成21年8月に発生した台風第9号による豪雨では、人口減少や山の荒廃、各商業地の衰退等の課題を抱えていた兵庫県佐用町に、人的被害や河川、道路、農地等の損壊などの甚大な被害をもたらした。一般に災害により甚大な被害を受けると、まちは加速度的に衰退してしまうことがある。そのような事態にならないように、佐用町ではこの災害を契機にして災害復興計画を策定し、「みんなで創る新しい」まちづくりが動き出そうとしている。

本発表は、佐用町で実施している防災に関する多くの施策の中で、防災を日常に浸透させる試みとして、食を題材とした「おいしい地域イベント」である「ぼうさい朝市」について紹介し、さらなる地域防災力の強化に資するものである。

2. 「ぼうさい朝市」の概要

(1) 防災に関する行動レベルの類型化¹⁾

住民の防災に関する行動のレベルを図-1のように類型化すると、地域防災力を強化し減災を目指すには、各レベルに応じた取り組みを実施する必要があると考える。地域防災力の底上げには、最も大多数を占める「認識レベル」の人々のレベルアップが不可欠である。

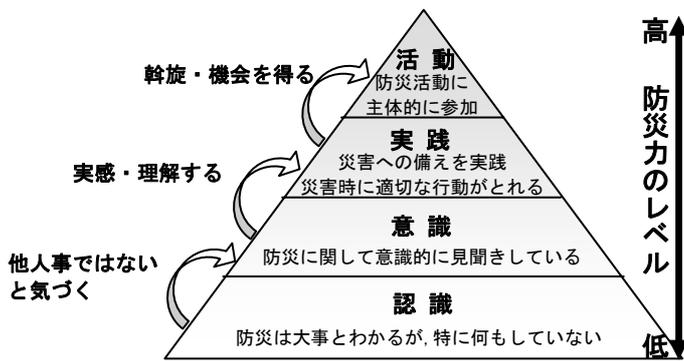


図-1 防災に関する行動レベルの類型化

(2) ぼうさい朝市とは

過去の大災害では、被災地に全国から救援物資が届きすぎて処理しきれない、ボランティアの受け入れ体制が不十分など、「災害発生後の対応」において多くの問題が発生している。佐用町の台風第9号による水害においても同様であった。しかし、これらの問題に対して、一般的な防災訓練で全国から救援物資を募るのは困難であることから、さらなる工夫が必要である。

ぼうさい朝市とは、救援物資という名前の全国の特産品を集め、食を通して防災を日常に浸透させることで、防災意識がそれほど高くない「認識レベル」の人々を「意識レベル」へ底上げするための防災訓練である(写真-1)。さらに、佐用ぼうさい朝市では、災害時に重要となる人と人の繋がりや絆を日常から一層深めることで、住民の活気を取り戻し、一丸となってまちの復興を目指すものである。



写真-1 佐用ぼうさい朝市の様子

キーワード 地域防災力, 救援物資, 商店会, 受援力, 卓上水理模型, 復興計画

連絡先 〒541-0052 大阪市中央区安土町二丁目3番13号 パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社 TEL06-4964-2431

3. 佐用ぼうさい朝市の内容

(1)ねらい1：災害時の人と人との繋がりを深める

1)防災はおいしい

防災フォーラムや防災訓練は大事であるとはわかっていても、それらに積極的に参加していない「認識レベル」の人々が大多数だと思われる。被災後の佐用町においても例外ではなかったが、「防災はおいしい」という意識付けをすることによって、防災に関して意識的に見聞きする来訪者が見て取れた。第1回目のぼうさい朝市に先立ち開催した防災セミナー時に、「りんご豚まん」などを試食提供したところ好評となり、本番のぼうさい朝市には、地域コミュニティ内で誘い合い多くの住民が期待を持って来訪していた。第2回目のぼうさい朝市では、お気に入りの物産を目当てにグループ単位で来訪する住民がさらに増え、「おいしい」というキーワードがコミュニケーションの一助となっていることや、その情報伝達の早さが伺えた。さらに、近隣市の自治会からも視察があり、単なるイベントを超えた情報発信力ある「おいしい」防災訓練となった。

2)受援力を備える

全国の商店街同士が交流して友好関係を結んでいけば、いざというときの支援もスムーズに動く。また、どのようなおいしい差し入れが届くのか分かって楽しいこともあり、このことが被災地の心の支えにもなる。今回のぼうさい朝市では、救援物資に見立てた全国の特産品を受け入れ、配布するという実践的な作業を楽しみながら実行できていた。テントの設営にはじまり、炊き出しに見立てた餅つきなども実用を兼ねた防災訓練であると同時に、実践そのものの活動となった。被災地の復興は、支援側よりも受け入れ側の体制や準備が大切である。このことを痛感している佐用町において、ぼうさい朝市を通じて、いつでも支援を受けることのできる体制や心構え、いわゆる地域の受援力が備わりつつある。

(2)ねらい2：わがまちの洪水の危険性を実感

1)水中避難の危険性

流れのある水中の場合、膝くらいの深さの浸水であれば多くの人は行動が困難になることが水理実験から得られている。さらに、従来、自治体の避難勧告等の対象は地域住民であるが、車で移動中などの非住民（旅行者、買い物客、外国人観光客等）の被災も少なくない。台風第9号の水害でも、佐用町の高速道路を下ろされた車両の惨事が発生している。そこで、水中歩行や水没した車からの脱出等に関して、京都大学防災研究所で行われた水理実験映像を放映し、早期避難の重要性、水中避難の困難さや危険性²⁾について周知するとともに、通過車両等への情報提供のあり方について問題を提起した。

2)卓上水理模型（マイクロモデル）の実演(写真-2)

来訪した子供達が卓上水理模型を操作することを通して、模型で表現した「まちなか」に「氾濫水」が広がる様子を体験することにより、「洪水が起こるとどのように危険なのか」、「外水氾濫、内水氾濫の違いやその威力」、「河川改修の効果と必要性」等を実感してもらった。



写真-2 卓上水理模型の実演の様子

4. まとめ

地域防災力の底上げには、最も大多数を占める「認識レベル」の人々のレベルアップが不可欠であり、繰り返しばうさい朝市のような防災訓練を実施することは有効であると考えられる。防災を大上段に構えるのではなく、身近な食を通じて「防災はおいしい」をキーワードとして日常化し、さらに被災者になる可能性を「自分事」と理解して、日頃からの心得として受援力を高めておくことが重要である。

参考文献 1)桑原正人, 浅見ユリ子, 松田尚郎, 里村真吾: 地域の防災訓練を活用した「実感できる」防災講座の実施事例, 第63回年次学術講演会, 2008. 2)大西良純・石垣泰輔・馬場康之・戸田圭一: 地下空間浸水時における避難困難度指数とその適用, 水工学論文集, 第52巻, pp.841-846, 2008.